

1. 研究タイトルと研究課題

◆研究タイトル

へき地・小規模校における教職員研修の充実

◆研究課題

- ・教職員研修に関すること
- ・その他, 都道府県の指導・助言・援助に関すること

2. 調査研究に参画した市町村及び機関の概要

◆東神楽町（学校数, 児童生徒数は令和元年5月1日現在。以下, 同様）

- ・人口：10,293人（令和元年5月現在）
- ・小学校：4校, 児童数683人 ・中学校：1校, 生徒数349人
- ・統合存続等の現状・予定：令和2年度末をもって小学校1校閉校の予定

◆岩見沢市

- ・人口：81,016人（令和元年5月現在）
- ・小学校：14校, 児童数3,549人 ・中学校：9校, 生徒数1,886人
- ・統合存続等の現状・予定：全ての小・中学校において存続の予定

◆江別市

- ・人口：119,323人（令和元年5月現在）
- ・小学校：17校, 児童数5,635人 ・中学校：8校, 生徒数2,947人
- ・統合存続等の現状・予定：全ての小・中学校において存続の予定

◆北海道教育大学へき地・小規模校教育研究センター

・概要

へき地・小規模校教育の専門的教育及び研究を推進するとともに, 他大学や地域の諸機関と連携しつつ, 学校教育や現職教員の実践的活動への支援を行うことを目的とする機関。へき地・小規模校教育に関する調査及び研究, へき地・小規模校における教育内容及び教育方法の研究及び開発, へき地・小規模校の教育実践に関する連携及び支援, 学生のへき地校体験実習の実施及び評価, その他目的達成に必要な業務を行う。

・本調査研究における役割

へき地・小規模校に勤務する教員を対象とする研修の内容に係る助言及び研修における講師

◆北海道へき地・複式教育研究連盟

・概要

各地区のへき地・複式教育研究団体の活動を促進し各関係機関団体と連絡を密にして北海道へき地・複式教育研究の振興に寄与することを目的とする組織。へき地複式教育研究大会, 講習会, へき地・複式教育の振興に必要な資料の調査や収集配布, へき地・複式教育に必要な研究資料の刊行及び情報機関紙の発行, 各種関係機関及び団体との連絡提携, へき地・複式教育振興, その他本連盟の目的達成に必要な事業を行う。

・本調査研究における役割

へき地・小規模校に勤務する教員を対象とする研修への協力

◆北海道立教育研究所

・概要

北海道が地方教育行政の組織及び運営に関する法律第30条の規定に基づき設置する機関。教育に関する専門的, 技術的事項の調査研究, 教育政策の立案上参考となる資料の作成, 教育関係職員の研修, 教育関係職員の教育に関する研究相談への対応, 又は資料の提供等, 道民の教育に関する相談への対応, 教育に関する資料の収集及び保存, その他教育の振興を図るために必要な事業を行う。

・本調査研究における役割

調査研究の主体

3. 取り組んだ内容

◆勤務校（中学校2校）と北海道立教育研究所（以下、道研という）を接続した遠隔研修の試行

岩見沢市立栗沢中学校
学級数5 生徒数93人
教科担任数 外国語1人

岩見沢市立上幌向中学校
学級数6 生徒数59人
教科担任数 外国語1人

実施のねらい

他校の外国語担当教員との授業交流を通して、指導力を高める。

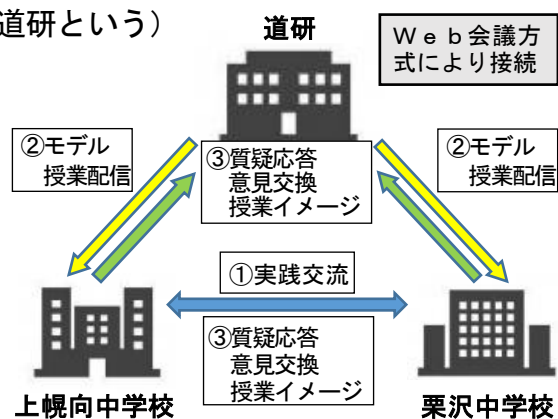
実施のねらい

他校の外国語担当教員と授業を見合い、日常の実践を交流する。

実施方法

両校の外国語担当教員と道研の外国語担当の研究研修主事が、Web会議システムを使用して、次のとおり遠隔合同研修を行った。

- ① 相互の授業を参観し、日ごろ感じている授業の悩みや指導方法等に関する実践交流
- ② 道研所員（3人）からモデル授業配信
- ③ モデル授業終了後の質疑応答・意見交換、授業に反映できる内容の確認（授業イメージ）



◆道研と大学が連携し、大学の通信ネットワークと教育力を活用した遠隔研修の実施

実施のねらい

会場が遠方のため研修に参加しづらく専門的な知識を得られないなどの課題に対応するため、道研と北海道教育大学が連携し、専門的な知識を有する講師による講義等を通じて参加者の指導力等を高めることを目的に、「これからのへき地・小規模校教育充実研修」（基礎編及び発展編）を実施した。

実施方法

- ① 北海道教育大学のビデオ会議システムを活用し、北海道教育大学札幌駅前サテライト、北海道教育大学旭川校、釧路校、函館校の4会場を結んだ遠隔研修
- ② メイン会場の札幌駅前サテライト会場から、講義や実践発表を各キャンパス校会場に配信
- ③ 演習等については、北海道教育大学教授等が各キャンパス校会場講師として、受講者に助言、併せて4会場を結んだトークセッションを実施



4. 研究の成果と今後の取組

◆研究の成果

- ・へき地・小規模校の教員の個別課題に対応した遠隔研修の試行や、研修機能をもたせた遠隔合同授業の効果の把握により、通信ネットワークを効果的に活用した研修方法を明らかにすることができた。
- ・勤務校で受信する遠隔研修の試行や、大学等の関係機関が有する既存の通信ネットワークと教育力を活用した遠隔研修の実施により、研修会場への移動時間などの教員の負担を軽減するとともに、へき地・小規模校に適した効果的な研修の実施が可能であることを明らかにすることができた。
- ・先進校における研修機能を有した業務推進体制の効果の把握及び外部有識者からの意見聴取により、研修を関連付けた業務推進体制の重要性を明らかにすることができた。

◆今後の取組

- ・道研と北海道教育大学へき地・小規模校教育研究センター及び北海道へき地・複式教育研究連盟が連携した遠隔研修講座の実施
- ・北海道内の市町村及び管内教育研究所等で実施する道研研修講座における、本研究成果の普及・還元
- ・調査研究に参加した市町村及び学校における研究成果の活用状況の継続的な把握と支援

5. 他都府県へのメッセージ

へき地・小規模校においても、勤務校や移動時間の負担を軽減した研修会場において研修が受けられる環境を整備するとともに、研修を関連付けた業務推進体制の整備等、小規模校に適した研修方法を開発することにより、教員の指導力を向上させることが可能である。なお、本研究成果は、へき地・小規模校のみならず、一定規模を有した学校においても有効に活用できると考える。